

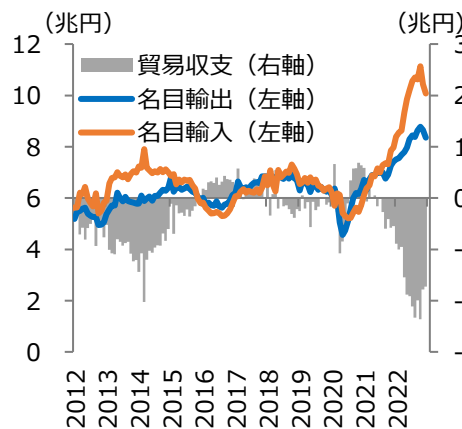
日本

貿易統計 (2022年12月)

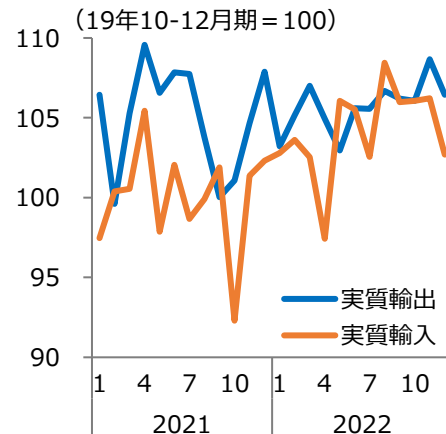
中国向け輸出が大幅減少の一方、米欧向け輸出は底堅く推移

政策・経済センター
堂本健太
03-6858-2717

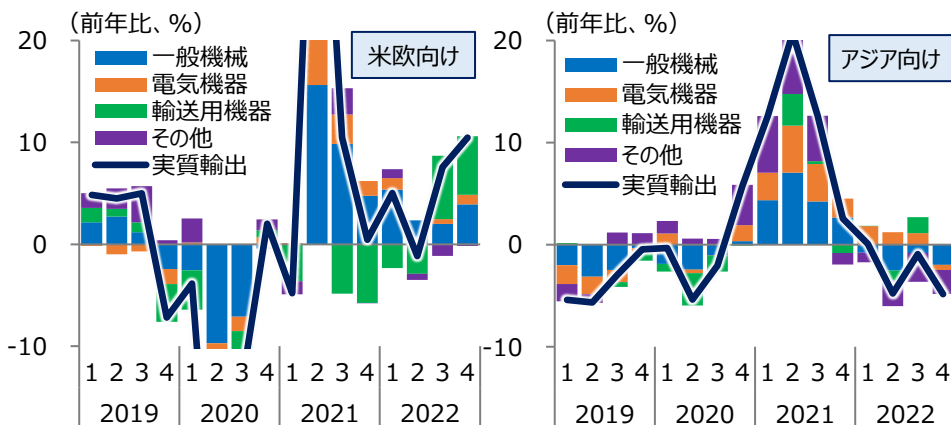
1 名目輸出入・貿易収支



2 実質輸出入



3 実質輸出 (地域別・財別)



評価ポイント

今回の結果

- 22年12月の貿易収支 (季調値) は▲1兆7,324億円と19カ月連続の赤字となった (図表1)。名目輸出 (前月比▲3.5%)、名目輸入 (同▲3.4%) とも減少し、赤字幅は前月からほぼ横ばいとなった。22年通年の貿易収支は、▲19兆9,713億円と、比較可能な1979年以降で過去最大の赤字となった。
- 価格・為替変動の影響を除いた実質ベース (当社試算、季調値) でも、輸出 (前月比▲2.0%)、輸入 (同▲3.3%) とも減少した (図表2)。輸出は、中国向け (同▲6.0%) の落ち込みが大きく、全体を下押しした。12月に新型コロナ感染が急拡大し、経済活動が混乱した影響が大きいとみられる。

基調判断と今後の流れ

- 貿易収支は引き続き大幅赤字が続いているが、円安一服・原油価格下落傾向を受け、赤字幅は22年半ば以降、徐々に縮小している。
- 実質輸出は、10-12月期で均すと前期比+0.9% (7-9月期同+1.6%) と底堅い。地域別・財別に変動要因をみると、米欧向けの輸出の増加が、全体を下支えしている構図だ (図表3)。輸送用機器と一般機械が増加を牽引しており、自動車のペントアップ需要や投資需要の強さが背景にあるとみられる。
- 一方、アジア向け輸出は低迷している。中国向けは、ゼロコロナ政策による需要の停滞 (12月にゼロコロナ政策は転換したものの、感染拡大から経済活動は混乱) の影響が大きく、ASEAN・NIES向けでは半導体の在庫調整を受け、電気機器・一般機械 (半導体製造装置等) が減少している。
- 先行き23年前半は、金融引き締めを受けた欧米経済の減速や世界的なIT関連財の生産抑制から、輸出の下押しが強まるものの、その後は徐々に復調するとみる。背景として、①中国経済の持ち直し (感染終息後の経済活動正常化)、②半導体サイクルの好転 (在庫調整は23年前半で一巡の見通し)、③米国経済の底打ち (23年前半でFRBの利上げは打ち止め見込み) が挙げられる。